

2008秋季闘争

労働条件の向上は魅力ある産業の第一歩



2008秋季闘争の申し入れをする組合側
(上)、所見を述べる経営側(下)



紙パ連合

発行所
日本紙パルプ紙加工
産業労働組合連合会
〒107-8333 東京都港区北青山
2丁目2番4号
TEL 03-3402-7656
FAX 03-3402-7659
URL <http://www.jpwr.or.jp/>
発行人 鈴木辰男
購読料は組合費を含む
定価2頁10円、4頁20円



組合員のがんばりに 経営側の前向きな対応を

紙パ連合は、七月十日、十一月十日に開催される「二〇〇八秋季闘争」に際して、「二〇〇八秋季闘争」の申し入れを主とし、各組合がとりくむを進めていくことになりました。冒頭、申し入れに際して、今、景気が後退局面にあり、紙パ連合・鈴木中央執行委員長から「紙パ連合」に依存してきた日本が内需型の経済成長への転換をはかるためには、一時金の増額を含めた労働条件の向上による家計の改善が必要である。今後具体的な交渉に入っていくことになるが、

労働組合がヤマ場として設定している十一月六日の決着にむけて、各経営側が誠意をもって対応するよう、製紙連合会からの働きかけをお願いします。と述べました。

続いて、橋本書記長から申し入れ書に沿って、①情勢認識、②一時金に關して、③産別要求内容、④集中決着日について説明しました。

これに対して、製紙連合会労務部・鈴木委員長から所見が述べられました。その後、●紙パ産業の一時金の動向と他産業との比較、●景気後退局面



写真左から近藤執行委員、松川書記長、大場委員長、亀谷執行委員

組合の設立	1959年12月10日
組合員数	58名
組合の構成	執行部：5名 (専従者なし)

度・寸法精度の高いもの要求に答えるため、徹底した品質管理で高品質を表現しています。

＊紙管
巻取用紙管は抄紙機の大型高速化などによる強

＊硫酸バンド
抄紙時の薬品定着、排水処理時の汚泥物沈殿などに使用されています。

＊地域紹介
苦小牧市は、人口約十七万人の北海道を代表する工業都市・港湾都市です。

昔から紙のまちとして有名ですが、紙・パルプの他に自動車部品、金属などの工業基地、石油備蓄基地や油ガス田を抱えるエネルギー基地といった産業も盛んです。

また、工業都市であるため、「水がまらずいのでは？」といったことが言われますが、樽前山麓の河川表流水を原水として引いており、『全国の水

道水がおいしい都市ベスト三十二』にも選ばれるほど水道水はおいしいです。苦小牧に来たときは水道水を是非飲んで下さい。

郊外には豊かな自然も残っており、苦小牧のシンボルである樽前山は、世界的にも珍しい頂上にドームのある三重式火山で、北海道の天然記念物に指定されています。

また、ホッキ貝は全国の漁獲高の1割を占め、市の貝にも制定されています。

その他、全国に先駆け「スポーツ都市宣言」を行い、アイスホッケーをはじめとしたスポーツも盛んですが、みなさんには、東北楽天の田中投手が所

属していた「駒大苦小牧」の夏の甲子園二連覇により、苦小牧を知る人が多いのではないのでしょうか？

トピック(主な活動)
・ホウリン大会
・組合員の家族及び元組合員も参加出来るホウリン大会を開催
・労使安全衛生委員会の実施(一回/月)
・労使安全パトロールの実施(一回/月)
・組織の課題・抱負
・三年前の会社合併に伴う組合組織拡大に向けた活動
・再雇用及び定年延長を含めた六〇歳以降の雇用確保
・新入社員採用を含む人材の確保

苦小牧加工労働組合

組合員の協力・努力に感謝

労務組合長所見

本日の申し入れの主旨については会員会社に伝えていますが、当労務部が交わらう立場にないことを承知おきいただいた上で、労務委員長としての所見を申し上げます。

一、経済情勢
このように大変厳しい状況が続いているなか、合理化やコストダウンへの各社の施策に対して、

二、申し入れ事項について
①一時金について
従来から申し上げているように、一時金については、業績の反映度合いが強く、成果配分の考え方が強くなっており、すでに各社労使がその趣旨に則り交渉されてきています。今度交渉においても、労使が十分な話し合いをする中で、相互理解の

と円満に解決されることを期待している。
②六十歳以降の雇用継続制度について
③総労働時間の短縮について
④年末年始一週間の連続休転休暇について
⑤労働協約締結・見直しについて
それぞれの見解がされました。(内容については一部省略させていただきますが「ウェイアップ・154号」に記載してありますので参照ください。)

最後に紙パ産業の諸課題について、意見交換がされは終了しました。

運動の活性化に向けて

各専門委員会ひらく

安全意識を高揚させよう

安全衛生委員会

紙パ連合安全衛生委員会は、十月十日本部会議室で、二〇〇八年度第一回安全衛生委員会をひらき、今年度活動の具体化について確認しました。その一部を紹介しましょう。

紙パ連合安全衛生委員会は、十月十日本部会議室で、二〇〇八年度第一回安全衛生委員会をひらき、今年度活動の具体化について確認しました。その一部を紹介しましょう。

紙パ連合安全衛生委員会は、十月十日本部会議室で、二〇〇八年度第一回安全衛生委員会をひらき、今年度活動の具体化について確認しました。その一部を紹介しましょう。



災害撲滅にむけて議論を深めました

大会」、二〇〇八年労働災害発生状況、産業界の安全意識の高揚を図る事を目的とした。その後、今年度活動の具体化として、①安全で快適な職場づくり、②環境保全と産業界のイメージアップについて議論し、来年の「セーフティウ

イック」まで、安全衛生活動に対する各組合の意識の高揚を図る事を目的とした。「安全衛生委員会の運営方法」や「類似災害を参考にした作業や設備見直し」等をテーマにした「ウェイクアップ」を毎月発行することにした。

また、「第十七回安全と健康を考えるシンポジウム」については、二〇〇九年五月二十二日・二十三日に大阪方面で開催することを確認し、内容については、第二回安全衛生委員会(二〇〇九年一月三十日)の中で具体化する事を確認しました。

教育広報は労働運動の原点

教育広報委員会

〇八年度教育広報活動の内容は「労働運動の原点、一番の基礎は教育広報活動である。労使ともに後継者の育成は課題である。今ある労働条件は先輩たちが築きあげてきた。今ではストを知らない世代になってきており、そうした勉強も必要ではないか。原点に戻って教育をしていかなければいけない」というのが、教育広報活動の原点として、委員会のメンバーが話し合った。委員会は、紙パ連合の充実を目的とし、先ず委員からの投稿記事を募ることにしました。

十月二十一日に紙パ本部会議室に於いて、第一回教育広報委員会が開催されました。

主な議題として「二〇〇八年度教育広報活動の内容は、昨年同様の「労使交渉・協議の進め方」を行いたいとの意見が委員から多く出され、これらを中心に第二回教育広報委員会(二〇〇九年一月二十八日)で最終決定をしていきます。

「組合員に情報を伝える役割として見やすく、わかりやすく読んでもらえる」を念頭に、機関紙・紙パ連合の内容の充実を図ることを目的とし、先ず委員からの投稿記事を募ることにしました。

連絡体制を強化しよう

中小労働委員会

九月二十九日、紙パ本部会議室に於いて、第一回中小労働委員会が開催

されました。委員会は、今年度の運動課題の具体化として、①中小組合連携強化、②全組合オルグの実施、③中小組合トップセミナーについて協議を行いました。

冒頭、鈴木委員長から「全組合訪問を実施しているが、訪問組合ではいろいろな問題を抱えている。今会議でも産別だとか運動だとかの論議でなく、委員が困っている事を出してほしい」、中村委員長から「紙パの中小組合は早期妥結の必要性和賃金力アップ維持分の把握が課題である」と報告されました。



2008秋季闘争の方針が再確認されました

意見を出してほしい。外に目を向けることが大事であり、遂行するには組織体制作りが必要だが、中小は連絡が取りづらい面があると思うので、個人情報保護法の問題もあるが携帯電話を利用するなど工夫して、新しいとりくみに挑戦して欲しい」と挨拶しました。

報告事項は、連合の二〇〇八春季生活闘争における、中小共闘のとりくみから、「紙パの中小組合は早期妥結の必要性和賃金力アップ維持分の把握が課題である」と報告されました。



労働講座にむけ委員より様々な意見が出されました

行動日)を十月二十八日に、統一ヒラ入れを十一月五日にすることとし、Sグループ会議の進め方を確認しました。

今年度の運動課題の具体化の中で、中小労働員が各地本の中で積極的に関わることにし、「中小組合表」を作成することにしました。

また、「中小組合トップセミナー」を、十一月二十一日・二十二日、新大阪で開催することにし、内容については、工場見学と、三班に分かれ、学習することを確認しました。



▼心臓移植が必要な人がいる。今までの生活と普通生活とで運動が大好きだったそう。▼国内で臓器提供を待っている人は、約一万二千人おり、その中で国内で移植を受けられるのは、年間二百人余しかいない。移植者は、海外に救いを求めるしかない。しかし、海外の移植には保険は適用されず、渡航費・移植費・滞在治療費を合わせると一億三千万円。一般家庭には、到底払える額ではない。▼海外での移植は、多くの人の善意を支えられ、助けられてこそ実現する。地域の協力を得て、イベント会場、多くのお店にも募金箱が置かれている。▼移植によって命が救われた人達のスポーツ大会がある。臓器移植を受けたことにより、普通の生活ができ、同じ病で苦しむ人の希望を示す。臓器を提供してくれた人への感謝、そして、より多くの人に臓器提供を呼び掛けるためだ。▼いま、自分にできることは、わずかな力でもかまわない。しかし、また元気な姿になるための助けになってあげたい。

(北陸地本・地蔵書記長 中越パルプ二塚)